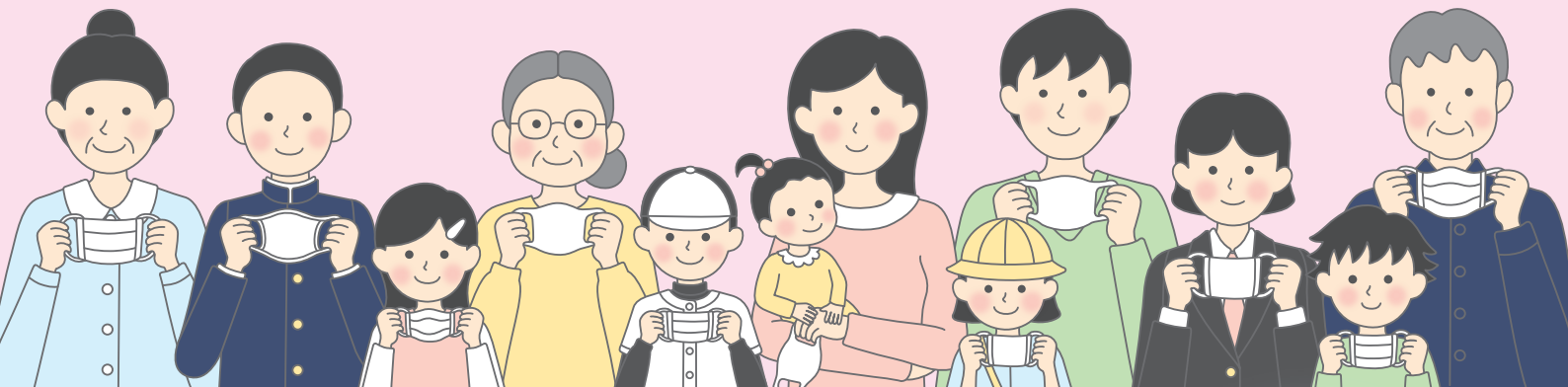


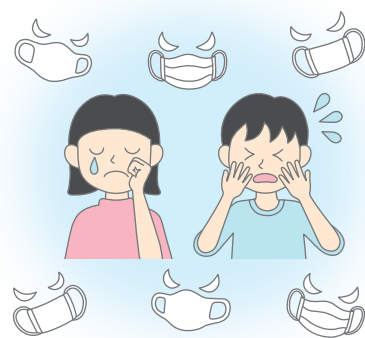
子どもたちの体と心の健康の為に

マスクをもう外していきませんか？



多くの子どもたちが長くマスクを外せずに苦しんでいます

多くの子どもたちが長期のマスク使用による様々な健康被害や精神的な悪影響を訴える事例が増えてきています。しかし、子どもたちは周りの目を気にして外したくても外せない状況に陥っています。マスクをしないことで差別やいじめが起きていたり、人に顔を見られたくない、人の息をかけられたくないというような深刻なマスク依存の状況にもなっています。未来ある子どもたちのために、そろそろ次のステップに進みませんか？



現段階でのマスク着用、本当に必要でしょうか？

2022年11月7日 財務省発表
「新型コロナの重症化率等の推移」

年齢別	第7派(BA4.5) (令和4年6月25日~8月21日)		季節性インフルエンザ (平成29年9月~令和2年8月)	
	重症化率	致死率	重症化率	致死率
60歳未満	0.01%	0.004%	0.03%	0.01%
60歳以上	0.14%	0.475%	0.79%	0.55%

2022年11月、重症化率も致死率もインフルエンザを下回ると政府が発表しました。感染は決してゼロにはありませんが、オミクロン株変異以降、基礎疾患の無い幼児での重症化の報告はありません。私達大人は、子どもたちに間違った感染対策を押し付けているのではないのでしょうか。

マスクの長期・長時間使用は子どもたちの身体の発達と精神への深刻な影響を及ぼしています

ドイツから発表された観察研究「長期のマスク使用による子どもへの影響」

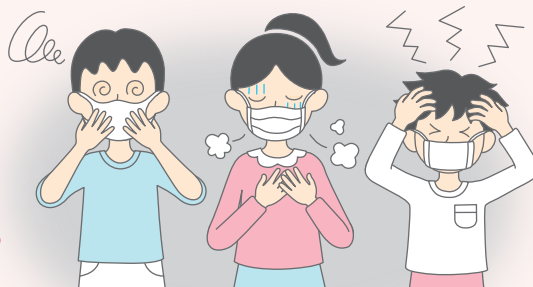
ドイツで調査された研究結果では、幼児期・児童期・思春期を通じての認知能力の発達を分析して「パンデミック中に生まれた子どもは、パンデミック前に生まれた子どもと比較して、言語能力、運動能力、総合的な認知能力が著しく低下している」との結果が示されました。

イライラ 60%

集中力の低下 50%

幸福感の低下 49%

学校・幼稚園への行き渋り 44%



頭痛 53%

学習障害 38%

倦怠感 42%

眠気 37%

※参照論文

ドイツ(ヴィッテン・ヘルデッケ大学)で発表された論文

2020年10月26日までに、ドイツ国内の合計20,353人が調査に参加し、保護者のグループだけで合計25,930人の子どものデータを入力し分析。

全国有志医師の会
「マスクに関する資料一覧」
掲載記事QRコード→

